



「努力する才能」
寺岡大輝選手
(平成27年入部)

寺岡は、大阪産業大学時代に夏のOP戦で抑え投手として投げ、先輩である高橋孝司から痛打をされていましたが、孝司から「寺岡はいい投手ですよ、きっと戦力になりますから声をかけて下さい」と押ししてきたのを覚えています。孝司の予言どおり、1年目からエースとして活躍してくるのですが、練習のない日や球場の定休日でも走り込み、投げ込みを行い、改めて「**努力をすることの重要性**」をチームに教えてくれました。寺岡の数ある戦歴の中から、語るに外せないのが、やはり都市対抗近畿予選での日本生命戦ですね。6回を終わって7対2とリードしながら、ピッチャーゴロを1塁への暴投から始まったエラーの連鎖で球友会始まって以来の快挙を逃しましたが、この後日本生命は「都市対抗・日本選手権」と夏秋連覇の快挙を果たすのですが、シーズン終了後、十河監督が「**箕島さんとの試合が一番しんどかった。負けを覚悟して、敗者復活戦の事を考えていました。寺岡君は良い投手ですね**」と賛辞を送って来ていました。この試合で寺岡自身も自信をつけたのか、その後のクラブ選手権優勝の立役者として「**MVP**」を獲得し「**努力する才能**」が開花し、「**押しも押されもせぬエース**」に君臨した時でしたね。また、一見「**理論や細かい技術より、ダイナミックなフォームで思いっきり投げ込むタイプ**」ですが、実は「**勉強熱心で細かい所にも目が行き自分の理論**」をもった選手でした。

また「**妥協を許さない芯の強さを持った**」選手で、自分が納得するまでやり通す頑張りやでした。

私の長い監督生活の中でも、寺岡の「引退」の2文字は寂しさを感じさせる選手の1人です。

これから真剣な野球を離れますが、仕事を頑張りながら「第2の寺岡」を育てて、選手を紹介して下さい。

4年間本当にご苦労様でした。